

特別支援学校の読書活動を充実させる手法の開発

—貸出し1万冊に至る環境整備・推進企画等の工夫—

田村 康二郎（東京都立光明学園）、本多 桂子（東京都立鹿本学園）

KEY WORDS：学校図書館、読書活動

【目的】

特別支援学校だからこそ基礎学力の基盤であり、余暇利用の手がかりともなる読書活動を活発にし、本に触れ、本を楽しみ、学びに活用する機会を積極的に設けていく必要がある。

【課題】

多くの知的障害特別支援学校では教室不足が慢性化し、図書室を普通教室に転用するなどの現状も頻繁に聞く。こうした現状等から校舎環境上（ハード面）の制約も存在する。また、図書館運営の難しさ、読書活動展開上（ソフト面）の問題、また児童生徒の実態から本の取り組みが難しいとの捉え方も聞く。特別支援学校では図書館の充実や読書活動が活動化しない現状には、種々の課題が存在する。

【方法】

A校は平成26年4月に開校した肢・知2部門併置の特別支援学校である。開校にあたり、どの児童・生徒にも読書の楽しさ、喜びを味わえる学校にするとの学校経営目標に掲げ、読書活動推進のために以下の手法を開発した。

1 学校図書館の環境整備の工夫

学校図書室に十分な広さの図書室が確保できない現状があったので、学校の中心部にある幅の広い廊下を活用し、1階には20mにわたって特製オープンラックを設置し、200冊の本を展示できるようにした。また翌年1月から2階にも新たに10m程度の図書スペースを展開した。

(1) 高さの低いオープン型の特製ラック

高さを抑えて本を面出し展示できる。車いすの児童・生徒にとっても見やすく、手を伸ばしやすい。また、この書棚は棚板の位置を変えることにより、文庫本から紙芝居まで様々な大きさの図書を配架することができ、あらゆる年齢の児童・生徒の知的な興味や好奇心を刺激することができる。（書棚と新刊図書は地域の社会貢献団体等からの寄贈）

(2) 表紙を見せた本の展示

児童・生徒が本の内容を想像して興味をもつことができるように、表紙を見せて展示（面出し）している。また、本のタイトルを読むことができない児童・生徒にも視覚的に理解できるように配慮している。紙芝居も保護ケースから出し、透明ケースに入れて面出し展示している。

(3) 月に1回、定期的に図書の入れ替え

司書教諭が季節にふさわしい内容の本や学習内容に関連した本を定期的に入れ替え、児童・生徒の知的な好奇心を高める工夫をしている。また、借りられない本・古く焼けた背表紙の本など全て廃棄し、支援を得て新刊本を多数導入した。

(4) バーコードによるシステムの導入

児童・生徒が自分で貸出手続きができるように、取り扱いの簡便なフリーソフトのバーコードシステムを導入している。（貸出時2回、返却時1回の操作）、これにより貸出数やベストテンリアルタイム把握が可能となった。

(5) 学校図書館運営疑似カンパニー

キャリア教育の一環として、高等部では作業学習でバーコード貼りや返却作業・案内表示づくりなど学校図書館運営を授業の一部として行っている。

(6) 親しみやすさの工夫

児童・生徒による本の紹介や季節の装飾が行われ、発表の場としても活用されている。

2 読書の習慣化を目指した実践

(1) 読書推進月間「レッツ読書！」（個人対応）の実施
開校記念日の前後1月の間、専用シールとブックカードを用いて本を借りて読書に親しむ機会を設け、総貸出冊数の多い各学部上位5名に読書奨励賞を贈呈。

(2) 読書推進月間「読書マラソン！」（学年対抗）の実施
2月の1ヶ月間、2部門合計21学年別の貸出冊数をリアルタイムで学年対応グラフを掲示し、読書に取り組む機会を設け、学年一人あたりの総貸出冊数の多い上位3学年に読書奨励学年賞を贈呈。

(3) マルチメディアDAISYの活用

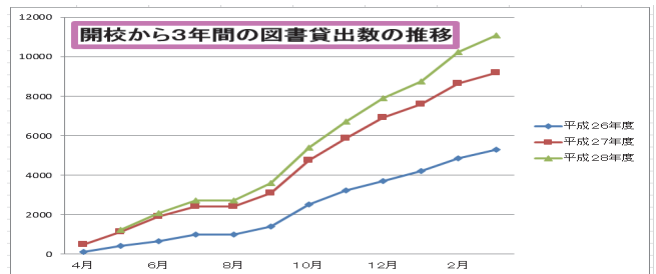
民間の教育財団との共同研究によって開発したマルチメディアDAISY図書による「聞く読書」を昼休みや学習時間に活用し、聴覚と視覚を活用して読書に親しむ方法を経験させる機会とした。

(4) 公共図書館との連携

区立中央図書館や国立国際子ども図書館の団体貸出を利用して、学校図書館では用意できない貴重な図書の貸出や公立図書館スタッフの派遣を受けてお話をを行い、読書のおもしろさを体験し、本好きのとなるきっかけとした。

【結果】

開校前の母体校時代は年間200冊未満であった貸出量が年間1万冊を突破した。また満足度評価=95%に達した。



Q10 読書活動等の、活字に親しむための教育環境を整備（オープンライブラリーの充実）することができますか。

評価	協議委員			保護者			教職員			全体		
	プラス評価	マイナス評価	未記入	プラス評価	マイナス評価	未記入	プラス評価	マイナス評価	未記入	プラス評価	マイナス評価	未記入
◎	100%	0%	0%	100%	0%	0%	90%	6%	4%	95%	3%	2%
回答用紙に書かれた意見や課題(抜粋)						回答・改善策						
<ul style="list-style-type: none"> ・年々活性化し、充実してきていると思う。 ・混雑しすぎて利用できない時がある。 ・読ませるだけの授業があるが、単位時間の流れをきちんと示した方がよい。 ・読書推進月間(図書カード含む)があるのは、児童・生徒のモチベーションがあるからで、良い。 ・図書棚はとてもよく整理されている。担当の先生方やボランティアの方々のおかげで、図書室関係がとても充実しており、使いやすくなっている。 ・棚に本が詰まりすぎず、適度に並びやすく見やすい。 						<ul style="list-style-type: none"> ・今後も展示図書の入れ替えや読書推進月間などの取り組みを続けていきます。 						

【考察】

年間1万冊を超える貸出量に象徴される読書活動の活発化は、「経営目標化」「直接手に取りやすい工夫」「視覚的提示を重視した配架」「読書を習慣化するプログラムの開発」「図書館運営の効率化」等の全校的な取り組みがもたらした成果である。十分な図書室が確保できなくてもこの成果が得られたことは、物理的環境が制約とはならないということであり、また、障害の軽重に関わらず一人一人が読書活動を楽しむことができる事の証明である。

(TAMURA Kojiro, HONDA Keiko)